

令和 3 年 5 月 26 日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K12977

研究課題名（和文）高機能自閉スペクトラム症圏の母親を対象とした解決志向型グループワークの開発

研究課題名（英文）Development of Solution-Focused Approach (SFA) Groupwork for Mothers with High-Functioning Autistic Spectrum Disorder (HF-ASD)

研究代表者

岩田 千亜紀（Iwawta, Chiaki）

東洋大学・社会学部・助教

研究者番号：40801478

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、特に養育困難をもつ高機能自閉スペクトラム症（HF-ASD）と診断された母親またはその疑いのある母親に対する解決志向型（SFA）グループワークを実施し、その有効性を検証した。評価の結果、SFAグループワークの効果が統計的にも確認され、効果の発現要因も明らかにすることができた。また、SFAグループワーク実施のためのテキストの作成を行い、全国の発達障害者支援センターおよび発達障害当事者会の関係者に送付を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義や社会的意義としては、第一に、これまでほとんど研究がされてこなかった発達障害圏の母親を対象とした研究を実施したことである。第二に、本研究では、既存の専門家主導のアプローチとは異なる、当事者自身のストレングスに焦点を当てたSFAグループワークを実施し、その有効性を明らかにしたことである。第三に、SFAグループワーク実施のためのガイドブックの作成を通して、SFAグループワークの今後の普及に貢献することができたことである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the study is to examine the effectiveness of a Solution-Focused Approach (SFA) Groupwork for mothers with High-Functioning Autistic Spectrum Disorder (HF-ASD). Based on the result of the evaluation study, SFA groupwork had a positive effect on those mothers and was considered statistically significant. Furthermore, based on the result of the study, the guidebook of a Solution-Focused Approach (SFA) Groupwork for people with development disorders was developed. The guidebooks were distributed to Support Centers for Persons with Development Disabilities and Support groups of people with development disabilities.

研究分野：社会福祉

キーワード：発達障害圏の母親 解決志向 グループワーク スtrenグス

1．研究開始当初の背景

自閉スペクトラム症 (autistic spectrum disorder ; ASD) については、2016 年に「発達障害者支援法」が改正され、ライフステージを通じた切れ目のない支援が目的として追加された。子育ての面では、母親自身が高機能 (high-functioning) 自閉スペクトラム症 (以下、HF-ASD と示す) の場合、障害特性等から、子育てへのストレスが高く、育児困難を背景とする抑うつなどの精神症状を発生しやすくなり、子ども虐待などの不適切な子どもの養育に繋がると指摘されている (浅井ら, 2005)。しかし、母親自身が HF-ASD の特性を有している場合には、従来の支援プログラムでは効果が十分に発揮できない課題が浮上している。

ASD を含む発達障害と子育ての関係についての研究は多数行われているが、石川 (2013) が述べているとおり、それらのほとんどは子どもに発達障害がある場合の子育て研究である。発達障害のある母親に関する研究としては、発達障害を抱える親と子ども虐待に関する研究 (浅井ら, 2005 など) や、母親の発達障害の重症度が負の療育要因となるといった研究 (Agha et al., 2013 など)、発達障害のある母親へのペアレント・トレーニングの意義や効果についての研究 (笠原, 2009 ; Babinski et al., 2014 など) がある。しかし、いずれも支援者の視点から必要と思われる母親支援について考察しているため、当事者自身のニーズについては十分に把握できていない。

このような背景の下、筆者らはこれまで自身が HF-ASD と診断された母親たちによる手記の分析 (岩田ら 2016) や、HF-ASD と診断された母親および ASD が疑われる母親へのインタビュー調査 (岩田 2015) を行い、母親の子育て困難とニーズの把握に取り組んできた。さらに、HF-ASD 圏の母親への保健師等の関わりを明らかにするために、保健師等を対象とした調査 (岩田 2017) を実施した。これらの調査の結果、「HF-ASD 圏の母親の特性 (ストレングス) への理解」が、母親のストレスや不安の軽減に至るためのキーワードであることが明らかとなった。

なお、ASD をめぐる動向としては、障害を問題としてではなく特性として捉える「ストレングス視点」や、コミュニティとの「協働」といった新たな動きが展開されつつある (Milton et al., 2013)。これらの結果から、ストレングスを基調とした「解決志向アプローチ (solution focused approach; SFA)」は、HF-ASD 圏の母親に対する効果的な実践アプローチの一つとなる可能性がある。

そこで、筆者は、SFA をベースにしたグループワークの検討を行い、HF-ASD 圏の母親を含む女性を対象にした小規模なグループワークを実施した (岩田 2018)。その結果、SFA を用いたグループワークは短期間でより効果をもたらす可能性と、HF-ASD 圏の母親にとって受け入れやすく参加しやすい可能性があることが示唆された。しかし、本研究のグループワークの参加者数が少なく、参加者本人および子どもの年齢にばらつきが大きかったことから、SFA を用いたグループワークの HF-ASD 圏の母親に対する有効性は、現時点では明らかではない。そこで、HF-ASD 圏の母親の年齢やニーズを十分に考慮した上で SFA を用いたグループワークを実施し、支援者側のグループワークの有用性についても検証することが必要であると考え、本研究課題を設定した。

2．研究の目的

本研究の目的は、特に養育困難を持つ HF-ASD と診断された母親またはその疑いのある母親に対する解決志向型 (SFA) グループワークを実施し、その有効性を検証し、さらに開発した SFA グループワークの支援機関への普及を目的に、グループワーク実施のためのテキストを作成することである。

3．研究の方法

本研究は、HF-ASD 圏の母親に対する SFA を用いたグループワークの効果を検証し、SFA を用いたグループワーク実施テキストの開発を行うことである。この目的を達成するために、下記の 3 つの課題を設定した研究を行った。

(a) SFA 型グループワークを実施するための基礎調査（研究 1）（2018 年度）

研究 1 では、HF-ASD 圏の母親を対象とする SFA 型グループワークを実施するための基礎調査として、都内の「子育て世代包括支援センター」および「子ども家庭支援センター」を対象とした質問紙調査を実施した。

(b) SFA 型グループワークの効果検証（研究 2）（2019 年度）

研究 2 では、HF-ASD と診断された母親を含む発達障害圏の母親 6 名を対象に、SFA グループワークを計 3 回実施し、評価を行った。

有効性を評価するための研究デザインは、グループワークの参加前後比較によるシングル・システム・デザインとした。使用尺度は、SFA 型グループワークにおいて標準化された心理尺度である「アウトカム評価尺度（the outcome rating scale ; ORS）」と「グループ・セッション評価票（group session rating scale ; G-SRS）」等である。さらに、アンケート調査を実施し、SFA 型グループワーク実施による HF-ASD 圏の母親への効果を検証した。

(c) SFA 型グループワーク実施ガイドブックの開発および普及（研究 3）（2020 年度）

研究 3 においては、HF-ASD 圏の母親に対する SFA を用いたグループワークの実施ガイドブックを作成した。ガイドブックの作成に当たっては、発達障害当事者の人々への聴き取り調査を行い、それらの意見を基にガイドブックを完成させた。さらに、完成したガイドブックについては、SFA グループワークの普及のため、発達障害者支援センターおよび発達障害当事者会の関係者などに送付を行った。

4 . 研究成果

本研究における、3 つの研究課題についてのそれぞれの研究成果は、以下の通りである。

(a) SFA 型グループワークを実施するための基礎調査（研究 1）に関する成果

研究 1 の結果、都内の「子育て世代包括支援センター」および「子ども家庭支援センター」の支援者のほとんどが、HF-ASD 圏の母親を含む発達障害圏の母親への関りを有しているものの、支援に際しては母親とのコミュニケーション等、様々な困り感を抱えていることが分かった。特に、未診断の母親の場合は、母親自身が障害を受容することは難しいことから、支援が困難であることが明らかとなった。今後の課題として、支援者の発達障害圏の母親の特性を踏まえた支援、さらには発達障害圏の母親自身の特性理解の促進の必要性などが示唆された。なお、SFA では、問題の焦点化ではなく、当事者のストレングスに焦点を当てるといった特性を有している。そのため、SFA 型グループワークは、発達障害と診断済みの母親だけでなく、母親自身としては問題を感じていないような支援が特に難しいとされる未診断の母親に対しても有効である可能性が高いと考えられた。

(b) SFA 型グループワークの効果検証（研究 2）に関する成果

研究 2 では、HF-ASD と診断された母親を含む発達障害圏の母親 6 名を対象に、SFA グループワークを実施し、評価を行った。「アウトカム評価尺度（ORS）」を用いた評価の結果、SFA グループワークは、発達障害圏の母親に対して良い変化をもたらしたことが、統計的にも確認された。さらに、「グループ・セッション評価票（G-SRS）」を用いた評価結果から、SFA グループワークは発達障害圏の母親にとってニーズに合致したものであり、目標を作ることは自分にとって効果があり、グループの中でサポートされ、理解されていると感じたことが分かった。それらの効果を発現した要因として、「グループにおけるグループ・ダイナミクスの力」、「SFA グループワーク特有のグループ・ダイナミクスの力」、「SFA グループワークに特有の参加者とファシリテータの協働による力」

の3つが挙げられた。また、従来型の支援では対応の難しかった、支援を自ら求めることがない発達障害圏の母親に対するSFAグループワークの有効性について検討を行った。さらに、SFAグループワークの実践課題として、ファシリテータ育成のための研修の必要性などが挙げられた。

(c) SFA型グループワーク実施ガイドブックの開発および普及(研究3)に関する成果

研究3では、これまでの成果を基に、SFAグループワーク実施のためのテキストとして、「自分が望む未来を創る 発達障害の人のためのSFA(解決志向型)グループワーク実施ガイド」を作成した。ガイドブック作成に当たって、発達障害当事者の人たちを対象としたガイドブックについてのヒアリングを行ったところ、本ガイドブックは発達障害圏の母親だけでなく、発達障害児者に広く活用してほしいとの意見が寄せられた。当初の予定では、発達障害圏の母親のみを対象としていたが、これらの意見を踏まえ、発達障害圏の母親を含む、発達障害当事者を対象としたSFAグループワークの実施ガイドを作成するに至った。なお、作成したガイドブックについては、全国100か所の発達障害者支援センターおよび発達障害当事者の関係者などに送付を行った。今後は、これらのガイドブックの活用を通じたSFAグループワークの普及が期待できる。

引用文献：

Agha, Sharifah S., et al. (2013) Are Parental ADHD Problems Associated with a More Severe Clinical Presentation and Greater Family Adversity in Children with ADHD?. *European Child Adolescent Psychiatry*, 22, 369-377.

浅井朋子ら(2005)高機能広汎性発達障害の母子例への対応. *小児の精神と神経*, 45(4), 353-362.

Babinski D.E, et al. (2014) Treating Parents with Attention-Deficit/Hyperactivity Disorders: The Effects of Behavioral Parents Training and Acute Stimulant Medication Treatment on Parent-Children Interactions. *Journal of Abnormal Child Psychology*, 42(7), 1129-1140.

Bliss, E., et al. (2008) A Self-Determined Future with Asperger Syndrome: Solution Focused Approaches. Jessica Kingsley Publishers Ltd.

石川道子(2013)発達障害のある人の子育て支援. *発達障害医学の進歩*, 25, 47-54.

岩田千亜紀(2015)「高機能自閉症スペクトラム障害(ASD)圏の母親の子育て困難と支援ニーズ 当事者に対する質的研究に基づく分析」,『社会福祉学』56(3), 44-57.

岩田千亜紀、落合亮太、大島巖(2016)「高機能自閉症スペクトラム障害(ASD)の母親の手記にみる子育て困難と支援ニーズ」,『障害学研究』11, 62-86.

岩田千亜紀(2017)「高機能自閉症スペクトラム障害(ASD)圏の母親への保健師等の関わり 「妊娠・出産包括支援モデル事業」における保健師等を対象とした調査」,『保健師ジャーナル』73-6, 514-521.

岩田千亜紀(2018)「子育て経験のある高機能自閉スペクトラム症圏の女性を対象とした解決志向型グループワークの有用性の検討」,『自閉症スペクトラム研究』15(2), 61-68.

笠原麻里(2009)広汎性発達障害の女性における妊娠・出産・育児. *精神科治療学*, 24(10), 1225-1229.

Milton, E.D., et al. (2013) Autistics Speak but are They Heard?. *Medical Sociology Online* 7, 61-69.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 岩田千亜紀	4. 巻 17
2. 論文標題 発達障害圏の母親への支援の実態および課題 東京都の子育て世代包括支援センターおよび子ども家庭支援センター支援者へのアンケート調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 自閉症スペクトラム研究	6. 最初と最後の頁 83-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 岩田千亜紀	4. 巻 58(1)
2. 論文標題 発達障害圏の母親を対象とした解決志向型グループワークの有効性と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 岩田千亜紀
2. 発表標題 発達障害圏の母親を対象とした解決志向型グループワークの効果検証
3. 学会等名 日本社会福祉学会関東地域ブロック研究大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 岩田千亜紀	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋大学	5. 総ページ数 46
3. 書名 自分が望む未来を創る 発達障害の人のためのSFA（解決志向型）グループワーク実施ガイド	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------